

血液検査の項目

NO.1



	検査項目	検査の説明
肝機能	AST (GOT)	肝臓や心筋・骨格筋等に多く含まれる酵素です。高値の時は、肝障害・心筋梗塞・筋疾患などが疑われます。
	ALT (GPT)	肝臓や腎臓に多く含まれる酵素です。高値の時は、肝炎・脂肪肝などが疑われます。
	γ -GPT	肝臓や腎臓・膵臓にも含まれる酵素です。アルコールの摂り過ぎや、さまざまな肝臓の病気で高い値を示します。
	TTT・ZTT	血清中の蛋白の性質を調べます。肝臓障害や膠原病などで高値を示す事があります。
	ALP	ほとんどの臓器に含まれる酵素です。主に肝臓・骨から出ています。
	LAP	胆汁中に多く含まれる酵素です。
	総ビリルビン 直接ビリルビン 間接ビリルビン	古くなった赤血球が分解されるときにできる物質で、胆汁色素の主成分です。直接ビリルビンと間接ビリルビンを合わせたものが総ビリルビンです。直接ビリルビンが高値の時は、肝障害・閉塞性黄疸などが疑われます。間接ビリルビンが高値の時は、溶血性貧血・甲状腺機能低下症などが疑われます。
	総蛋白 アルブミン A/G比	総蛋白は血清中に含まれる100種類以上ある蛋白の総称です。アルブミンは血清蛋白の大半を占めている蛋白です。A/G比は血清中のアルブミン(A)とグロブリン(G)の割合です。栄養障害や肝機能障害で異常値を示しますが、更に詳しい検査が必要となります。
	LDH	糖がエネルギーに変わるときに働く酵素で、全身の細胞に含まれています。臓器の障害などで高値になります。
コリンエステラーゼ	肝臓で作られる酵素で、高値の時は脂肪肝・脂質異常症、ネフローゼ症候群が疑われます。低値の時は、肝障害・栄養障害などが疑われます。	
糖代謝	血糖	血液中に存在する糖質で、高値の時は糖尿病が疑われます。食事を取った時間により変動します。
	HbA1c	過去1~2ヶ月の平均的な血糖の状態がわかります。通常の血糖値や尿糖のように食事の影響を受けないため、一次検査で糖尿病の指標として用います。
膵機能	アミラーゼ	主に膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。高値・低値ともに詳しい検査が必要です。
脂質代謝	総コレステロール	細胞膜の構成や胆汁、ホルモンの原料となる重要なコレステロールです。多すぎると動脈硬化の進展に影響を及ぼします。LDLコレステロール・HDLコレステロールが含まれています。
	HDLコレステロール	血管壁に付着する余分なコレステロールを肝臓へ返します。低値の時は動脈硬化の原因となります。
	LDLコレステロール	肝臓から全身の細胞へコレステロールを運びます。高値のときは動脈硬化の原因となります。
	non-HDLコレステロール	HDLコレステロール以外のコレステロール【総コレステロール-HDLコレステロール】の値です。高値のときは動脈硬化の原因となります。
	中性脂肪	食事によって摂取される脂肪がほとんどを占めます。高値のときは、動脈硬化や膵炎の原因となります。
	β -リポ蛋白	コレステロールや中性脂肪のまわりを包んで血液に混ざりやすくしている蛋白です。高値のときはコレステロールや中性脂肪が多いことがわかります。
動脈硬化指数	コレステロール値によって動脈硬化が起こりやすいかどうか判定する指数です。値が大きいほど動脈硬化が起こりやすいです。	
血液一般	赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット	血液成分の大部分を赤血球が占めます。赤血球の中にヘモグロビンという血色素が含まれます。ヘマトクリットは一定量の血液の中にどのくらいの割合で赤血球が含まれるかを調べます。いずれも低値の時は貧血の疑いがあり、高値の時は多血症が疑われます。
	白血球数	体内に侵入した細菌や異物を取り込む細胞で、高値の時は炎症が疑われます。
	血清鉄	血清中に含まれる鉄分を測定します。低値の時は鉄欠乏性貧血が疑われます。
	血小板数	出血時に血を止める働きをしています。その数を調べます。低値の時は血が止まりにくくなります。
	MCV・MCH・MCHC (赤血球恒数)	赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値を組み合わせて一定の数式で算出したもので、貧血の原因や貧血の種類・性質などを区別する上で有効な検査の一つです。赤血球の平均容積・平均血色素量・平均血色素濃度を示します。
	白血球分画	白血球を詳しく調べると、好酸球・好塩基球・リンパ球・単球・好中球(桿状各球・分葉球)に分けられます(分画)。分画ごとの増減数を調べ、病気診断の手がかりとする検査です。

血液検査の項目

NO.2



	検査項目	検査の説明
炎症	CRP	体内に急性の炎症や感染、組織の損傷があるときに、血液中に増える蛋白の一種です。
	CPK	骨格筋や心筋などの筋肉細胞のエネルギー代謝に重要な役割を果たす酵素です。また脳にも含まれ、筋肉や脳などの組織細胞に障害があるかどうかを判定する上で役立ちます。
	血沈	赤血球が沈む速度を測定します。様々な病気で異常値を示すので、スクリーニング検査として利用しています。
腎機能	尿素窒素	体内でエネルギーとして使われた蛋白質の老廃物です。高値のときは腎臓障害が疑われます。水分不足でも値が上昇する事があります。
	クレアチニン	体内でエネルギーとして使われた蛋白質の老廃物です。高値のときは腎臓障害が疑われます。
	eGFR	クレアチニン・性別・年齢から算出され、糸球体ろ過能力を正確に診断することができます。
胃	ペプシノゲン	胃の粘膜の萎縮の状態を調べます。萎縮粘膜から胃がんや胃炎が発生しやすいといわれています。胃がんのできやすい状態になっているかを検査します。
	ピロリ抗体	ピロリ菌に感染していると血液中に抗体ができるため、感染の有無がわかります。
	尿酸	核酸の代謝によって生じた老廃物です。高値のときは痛風が疑われます。
肝炎	HBs抗原・抗体	B型肝炎ウイルス(HBV)に感染しているかを調べます。HBVは慢性肝炎から肝硬変・肝臓がんへと進行する可能性があります。
	HCV抗体	C型肝炎ウイルス(HCV)に感染しているかを調べます。HCVは慢性肝炎から肝硬変・肝臓がんへと進行する可能性があります。
感染症	梅毒	代表的な性感染症のひとつです。(+)は感染していることを示します。膠原病や妊娠中でも陽性と出ることがあります。
免疫	R F	関節リウマチ(RA)の診断基準の一つとして用いられます。高値になると、関節リウマチや膠原病が疑われます。
*腫瘍マーカー	PSA	男性の前立腺がんが高値を示します。前立腺肥大症、前立腺炎などでも高値を示すことがあります。前立腺の腫瘍マーカーの中でも特に有用とされています。
	CA125	主に卵巣がんが高値を示します。卵巣嚢腫、子宮内膜症でも高値を示すことがあります。
	CEA	主に消化器系(大腸・胃・膵臓・胆道など)のがん、肺がん、甲状腺がん、乳がん、卵巣がんが高値を示します。
	AFP	主に肝臓がんや肝炎、肝硬変などで高値を示します。肝臓病の早期発見などに役立ちます。
	CA19-9	主に膵臓・胆道がんが高値を示します。膵炎、胆のう炎、胆道系疾患、大腸がんなどで高値を示すこともあります。
	シフラ	主に肺がんが高値を示します。気管支拡張症、肺疾患、腎機能障害などでも高値を示すことがあります。
	p53抗体	主に食道がん、大腸がん、乳がんが高値を示します。
SCC	主に肺がん、子宮頸がんが高値を示します。	

*腫瘍マーカーには、早期がんでは反応の弱いものや、がん以外の病気でも高値を示すものがあります。がん診断の手がかりを得る検査だと考えてください。